

2009年のコンピュータウイルス届出状況

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：西垣 浩司）は、2009年1～12月のコンピュータウイルスの届出状況をまとめました。

1. 届出件数

2009年の年間届出件数は16,392件と、2008年の21,591件から大幅な減少となり、2003年の17,425件の水準まで減少しました。大規模な感染拡大を引き起こす大量メール配信型のウイルスが出現していないことから、届出件数が年々減少しているものと推測されます。

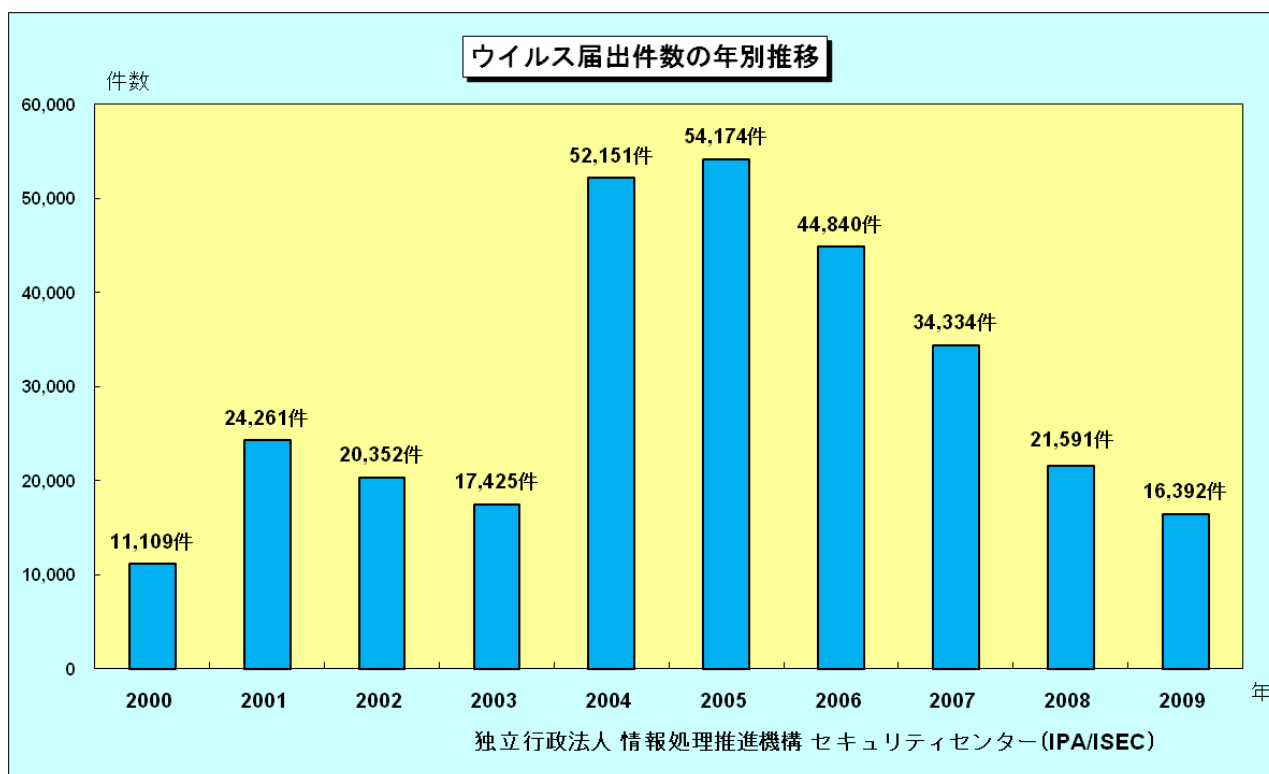


図 1-1：ウイルス届出件数の年別推移

2. 届出ウイルス

届出されたウイルスは125種類（2008年136種類）で、そのうち2009年に初めて届出されたウイルスは9種類（2008年19種類）でした。

届出ウイルスのうち、検出数の多い順は上から、**W32/Netsky**、**W32/Downad**、**W32/Mydoom** となっています。**W32/Netsky** は、2004年以降、毎年、最も多くの届出が寄せられており、検出数でも大きな割合を占めている状況が続いています。

また、**W32/Downad** はセキュリティホールを悪用するウイルスで、USBメモリを介して感染を拡大する機能を有した亜種も発生しており、2009年4月には検出数が増加しました。（図2-1参照）

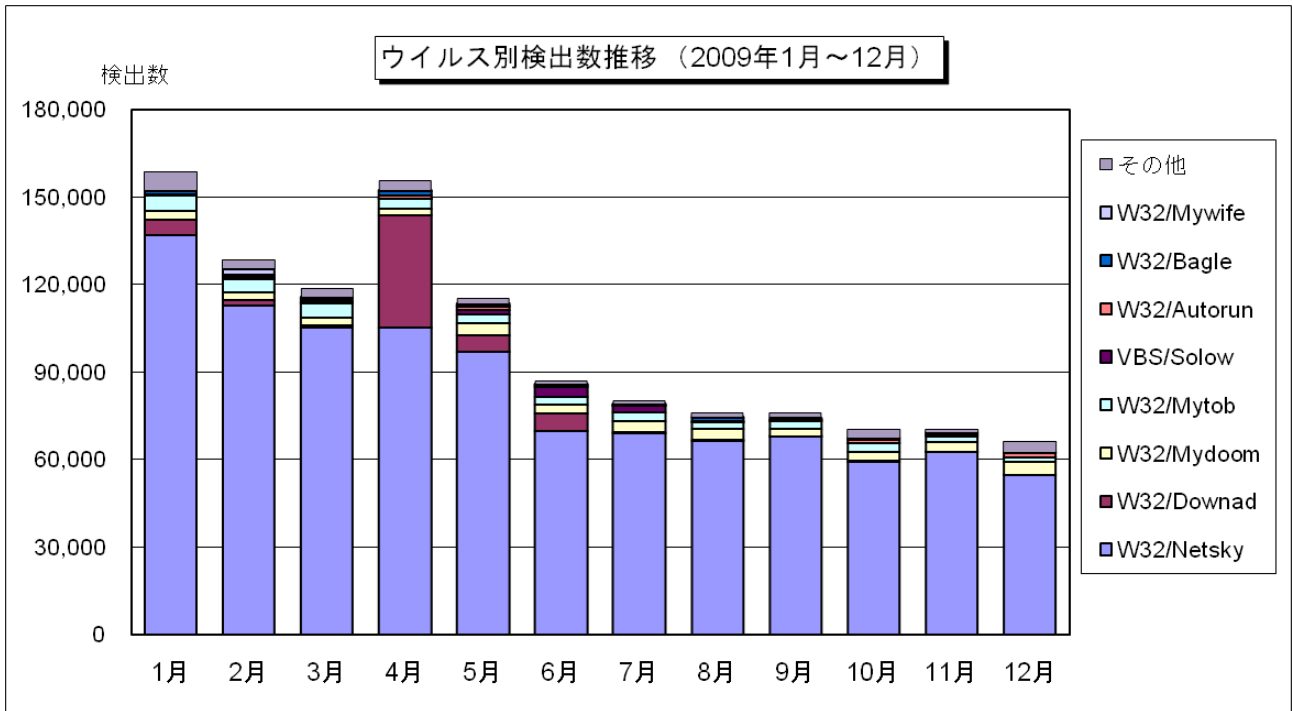


図 2-1 : ウイルス別検出数の推移

ウイルス別届出件数推移を見ると、**W32/Netsky** が減少傾向ではあるものの、依然として、最も多くの届出が寄せられている状況です。その他のウイルスも減少傾向での推移となっているものがありますが、**W32/Mydoom** は、増減を繰り返しており、2009年1月よりも2009年12月の届出件数のほうが多くなっている状況にあります。

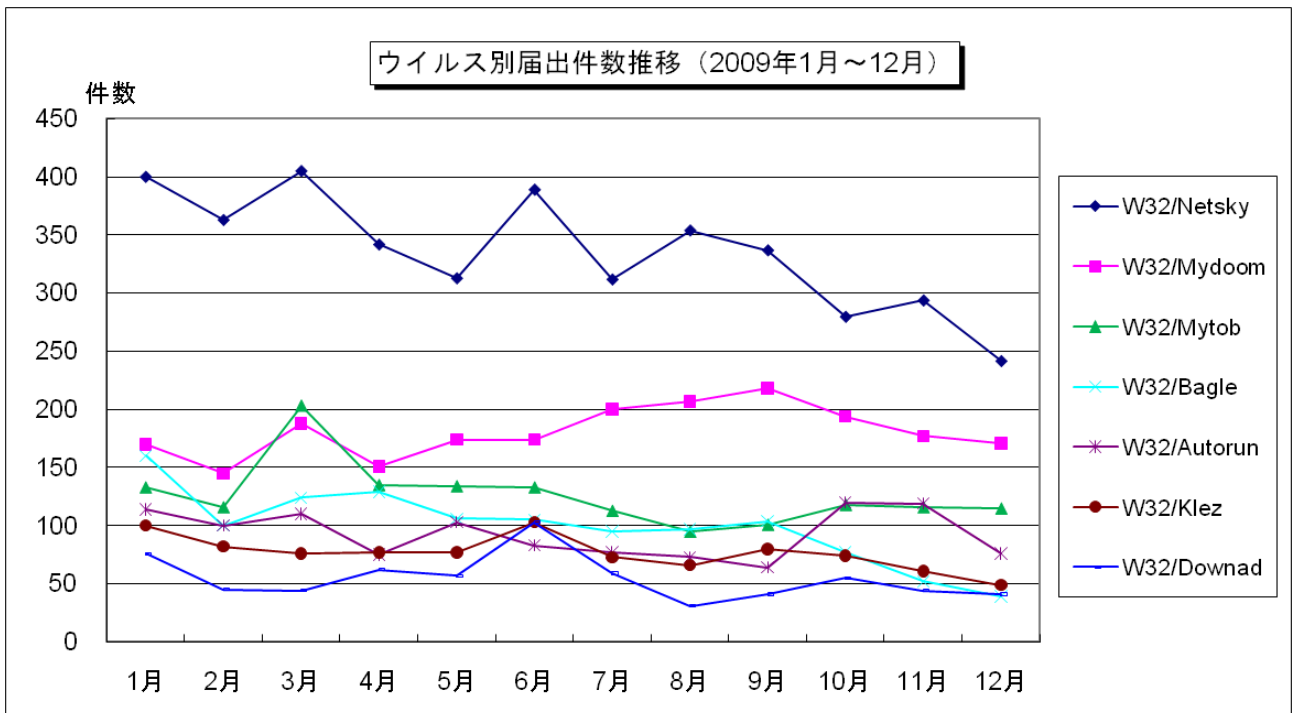


図 2-2 : ウイルス別届出件数の推移

■お問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 花村/加賀谷/大浦
 Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518
 E-mail: isec-info@ipa.go.jp